

2021/12/6-2

(うときゅういっきの「これから」同調圧力 恥2)

我が国には「建前と本音」という言葉があります。

簡単に言うと内と外が違っている。つまり二重構造になっていると言う事です。

まずこのことをしっかり頭の中に入れておく必要があります。

次に我々は「体裁を重んじる」傾向があります。

是は即ち「型(形=外見)を重んじる」のと同義語でしょう。

是が出来なかった場合我々は「体裁(型)を取り繕い」ます。

「体面を保とう」と必死になります。

以上が我々の人生の大部分を支配していると思われる

「恥を搔かない為の行動原則」

といえるかもしれません。

無論自分が観察したところに依れば、ですが。

元に戻りまして再び「内外(うちそと)」のお話しです。

内外(以降読みは全てうちそと)が異なると大変です。しょっちゅう内外を行き来して辻褃合わせや調整を取らなくてはならないからです。寸刻休む暇もありません。

更には内外を行き来するのでタイムラグが発生します。瞬間に反応できないので「例外的遭遇」を何より恐れます。結果反応が相手の目には見慣れた出来合いのものに映り且つ自分の方は狼狽や戸惑い、遅延反応を見せないために余り人と接したがりなくなります。

簡単に言うと「人を避けて逃げ腰に」なります。

要するに本音の見えないありきたりのつまらない関係しか生まれられない事になります。

又自分の中にある内外の違いを初めから織り込んでしまうので相手の内外の差を読もうと必死になります。逆に言うと自分の内外の差を見抜かれない為に更に裏の裏を作ったりもする様になります。

「駆け引き」「裏読み」「様子見」「相手の出方待ち」「腹の探り合い」

その結果日々の日常生活が殆ど「外交交渉の席上」の様なものになってしまいます。

是では疲れない方が不思議です。

公の舞台で恥を搔かない為の行動。それが「常時外交交渉生活」

何かそんな気がしてならないのです。自分は。

ではこんな虚しい怖じ気や疲弊しか招かない様な生活を止めるにはどうしたらいいのか？

話の元に戻ってみれば原則

「内外を合わせる」

となります。

内外を合わせるとイライラや疲弊、身構え疲れからは逃れられます。

ミスを恐れて浮き足立つ事もなくなります。

しかし

「時間稼ぎのタイムラグ」や「ショックを和らげるバッファ」がなくなりますので、もろに衝撃を受けてしまう事になります。

ならばどうすればいいのか？

それこそ妙な言い方ですが

「落ち着いたければ鉄砲玉に当たる（しくじりの）覚悟をするしかない」

と言う事でしょうか。

「恥（の恐怖）から逃れる為にはまず恥を（こちらから積極的に）掻く以外ない」

と言う事になる気が致しております。

追記)

勿論人には個性がありますからこの方法が合う人と合わぬ人が居て当然です。なので、合わない方に無理強いする積りは毛頭御座いません。

その場合はその方むけに又別の方法を考えるしかないと思っております。

何に付け「一律に」は良くないからです。